◆右京七条二坊の調査―第83-14次

1　はじめに

当調査は飛騨地区改良事務所建設に伴う事前調査であり、調査地は西二坊坊間路寄りの右京七条二坊の西北坪東北部にあたる。従前の同坪内で実施した調査（第29-1・5次、第48-11次北区）では、後世の攪乱や旧飛鳥川の氾濫によって大きく削平を受け、藤原京期の顕著な遺構は検出されていない。

2　基本層序と検出遺構

調査地の土層は、上から客土・旧宅地の整地土・旧水田耕土・床土・遺物包含層（暗灰粘質土・茶褐粘質土）・弥生土器を含む黒褐粘土の順で、中世の耕作溝は遺物包含層の面で、藤原京期の遺構は黒褐粘土面で検出した。遺構面は予想に反して西側が高く、東と北に傾斜する。

藤原京期の遺構には掘立柱建物があり、2棟分の計6基の柱穴を検出した。狭い調査区のため、棟方向・規模については定かでないが、柱筋・方位・柱穴の規模や形状から西と東の2棟に分離可能である。両建物間の距離は、約2.4m。西建物SB8883の柱間は2.4m等間、東建物SB8884の柱間は2.2m等間である。東建物SB8884の東から2番目の柱穴底面には根巻状の石の配列を確認している。いずれの柱穴も浅く、後世に大きな削平を受けたことを物語る。

3　出土遺物

瓦と土器が整理箱1箱分出土している。瓦は極めて少ない。土器には、平安時代の土師器・黒色土器、藤原京期の土師器・須恵器と弥生土器がある。

（巽 淳一郎）

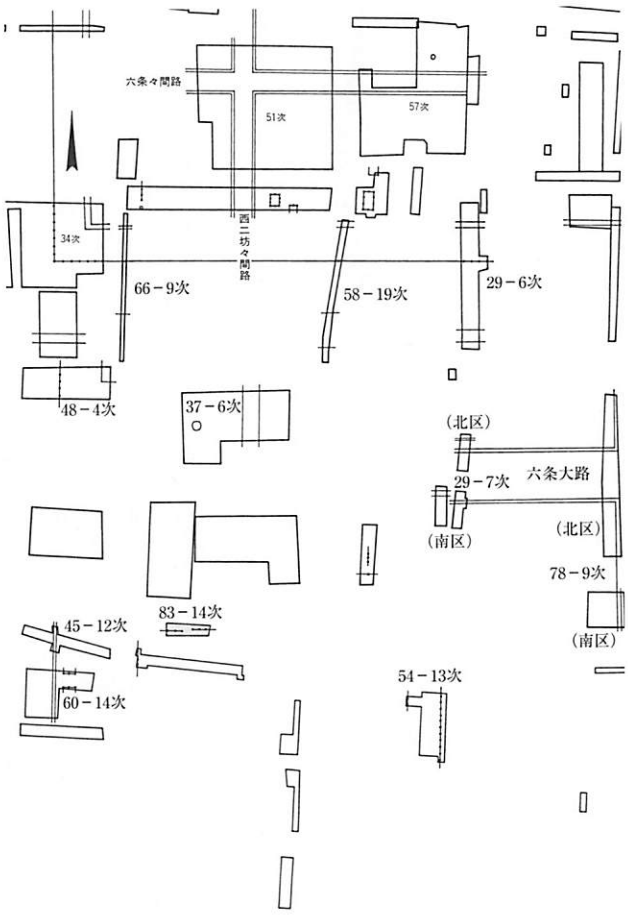

図26　右京七条二坊の遺構と調査位置図　1：2500

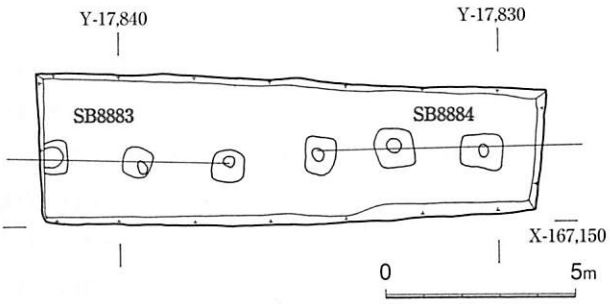

図27　第83-14次調査遺構図　1：200